

- すさまじい弾圧。1923年9月1日関東大震災下、朝鮮人大量虐殺、犠牲者6000人。
- ④15年戦争の中で朝鮮民衆への圧制は飛躍的に強化。まず精神面の強制、皇民化政策である。37年「皇国臣民の誓詞」の強制（「私共は大日本帝国臣民であります・私共は心合わせて天皇陛下に忠義を尽くします 等）、38年朝鮮語の使用禁止、40年姓名を奪った創氏改名、神社参拝強制等の徹底。
- ⑤労働力不足の中炭鉱や土木作業現場で強制的に働かせる「強制連行」。労働現場では重労働で虐待を受け約6万人が死亡したという。（サッカー大迫選手の故郷加世田万世飛行場では47名死亡）「対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会」によると認定被害者数は58万人に上るといふ。さらに、労務者、軍人軍属「慰安婦」等総人数は延べ780万、朝鮮半島外に連行されたのは120万超と言われている
- ⑥兵力不足で日本は朝鮮人を兵士として動員。はじめは「志願」という名の割り当てだったが44年から徴兵制が敷かれ27万人（韓国政府）もの人が戦場に狩り出され2万人が戦死したという。148人が「日本人」としてBC級戦犯に問われ23人が死刑を執行される。（
- ⑦私が最も知らを入れてきた問題の1つ。1930年代から45年まで侵略した先々に「慰安所」をつくり多くの女性たちが強制的、あるいは騙されて連れて行かされた。日本軍の「性的奴隷」とされ、1日に10人～20人、週末は多い時で4、50人を超えたというケースが。政府は93年に「河野談話」を発表しました。談話は、慰安所の設置管理などに軍が関与したこと、「慰安婦たちの意思に反し強制性があったこと、慰安所における生活は強制的な状況下で痛ましいものであった、などを表明した。
- ⑧広島朝鮮人被爆者協議会編『白いチョゴリの被爆者』によると朝鮮人被爆者総数4万8千人、その内1年以内に死亡もしくは行方不明となったもの3万人、韓国に還ったもの1万3千人という推定数をあげている。医療、生活の保障など、日本の責任が問われるケースとしてあげておく。

5. 中国への戦争責任—日本は中国で何をしたのか？ 日本よる犠牲者1000万人以上—

- ①中国侵略は、19世紀以来、日本の朝鮮侵略の意図と絡み合っている。日清戦争は朝鮮支配のための戦争という性格が強いが日本軍は中国領土に侵入し、下関条約で遼東半島と台湾を割譲させている。10年後の日露戦争でも戦場となったのは主に中国の領土であり、ポーツマス講和条約により大連・旅順周辺の関東州の租借権と南満州鉄道の所有権等を獲得し、中国の領土内に植民地支配権を確立している。1915年、いわゆる「21ヶ条条約」の受諾で中国に強要し、満州・東部内モンゴその他の各種利権を獲得する。28年山東出兵を行い武力をもって中国に内政干渉する。
- ②1931年9月18日中国東北部を奪う—日中15年戦争開始—日本軍は、瀋陽市郊外の柳条湖で南満州鉄道を爆破、かねてから計画していた“満州占領計画”を実行したもの。日本は中国軍の仕業として一斉攻撃を開始→日本軍32年2月までに東北の主要都市をほとんど占領→32年3月、日本が操る傀儡国家「満州国」をつくる→世界中から非難→日本、国際連盟から脱退（33. 3）
- ③平頂山虐殺事件—無順炭坑では日本人が中国人労働者を酷使し石炭を奪っていた。32年9月15日、抗日義勇軍が炭鉱事務所を攻撃、これに対し日本軍、皆殺し作戦、翌朝、日本兵は村を包囲し住民をがけ下に集め、機関銃で一斉に射殺。ガソリンまいて焼きダイナマイトでがけを爆破し埋める。住民3000名の内生存者わずか30名
- ④「満州」の人捨て場＝「万人坑」の悲劇—「満州国」は日本の植民地として石炭や鉄鋼などの軍需産業の中心地だった。このため多くの労働力は必要となり、軍、企業、「満州国」が一体になって中国全土から人々を集められた。中には「劳工狩り」という強制連行も、その数は数百万人に及ぶといわれている。満州・大石橋の悲劇、日本企業の「南満州鉱業株式会社」には3つの「万人坑」があり、そのうちの1つが現在「遺骨館」として残されておりおよそ1万7千人の遺骨があるという。大同炭坑では37～45年までに6万数千人の命が奪われ、吉林省の豊満ダム建設で1万人以上が殺されたという。